

9. 線形写像

1

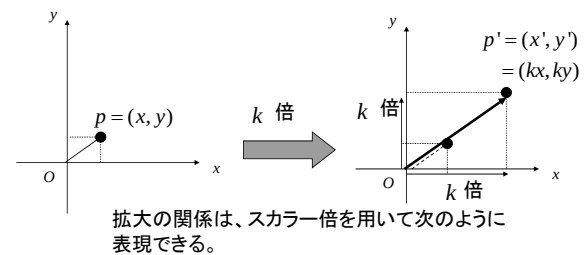
- ここでは、行列の積によって、写像を定義できることをみていく。
- また、行列の積によって定義される写像の性質を調べていく。

2

行列演算と写像(1次変換)

3

拡大とスカラー倍



拡大後

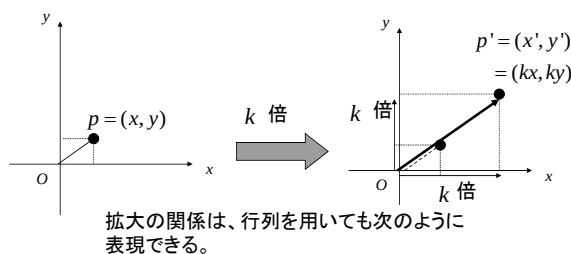
$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = k \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

拡大前

拡大

4

拡大と行列の積



拡大後

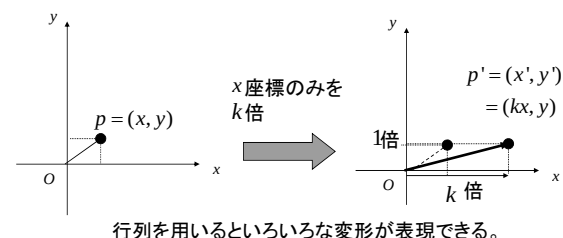
$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} k & 0 \\ 0 & k \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

拡大前

拡大

5

変形と行列



変形後

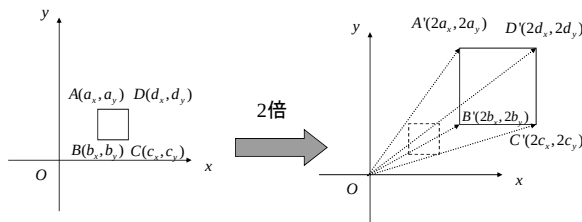
$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} k & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

変形前

変形

6

行列による図形の変形1

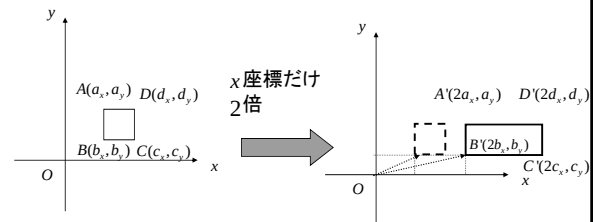


図形の拡大は行列を用いて表現できる。

$$\begin{bmatrix} a'_x \\ a'_y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_x \\ a_y \end{bmatrix}$$

7

行列による図形の変形2



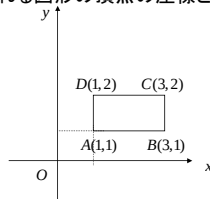
図形の変形は行列を用いて表現できる。

$$\begin{bmatrix} a'_x \\ a'_y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_x \\ a_y \end{bmatrix}$$

8

練習

次の図形に各変換をほどこしたとき、うつされる図形の頂点の座標と外形を描け。



(1)

$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

(2)

$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -2 & 0 \\ 0 & -2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

(3)

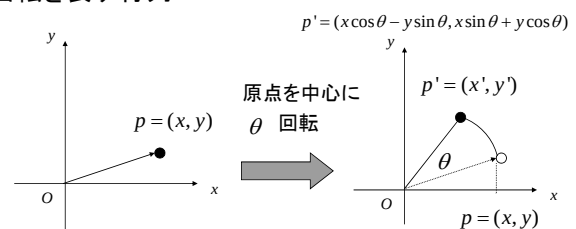
$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

(4)

$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} 1 & -1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

9

回転を表す行列



回転も行列を用いて表すことができる。

回転を表す行列は少し複雑である。
(興味のある人は自分で導くとよい。)

$$\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$$

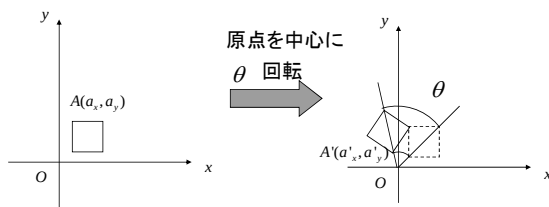
回転前

回転後

回転

10

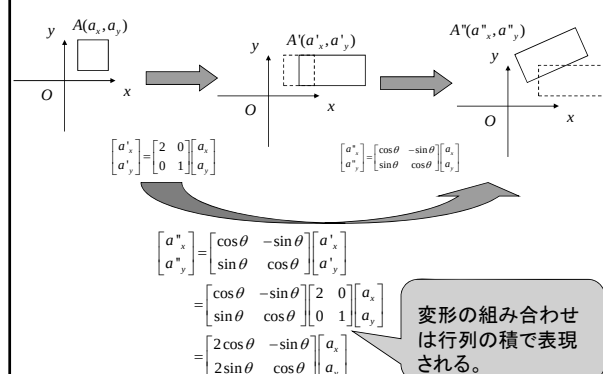
行列による図形の回転



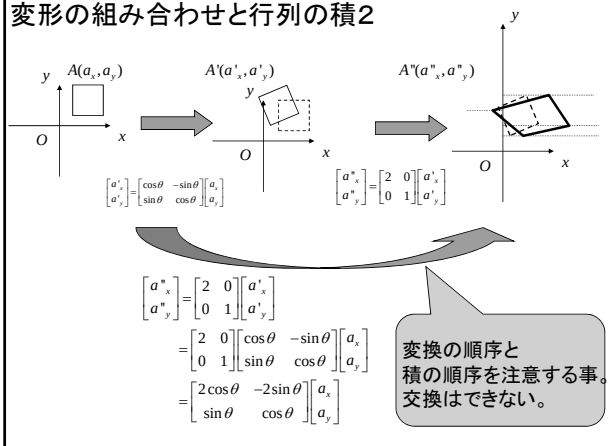
$$\begin{bmatrix} a'_x \\ a'_y \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} \cos \theta & -\sin \theta \\ \sin \theta & \cos \theta \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a_x \\ a_y \end{bmatrix}$$

11

変形の組み合わせと行列の積1

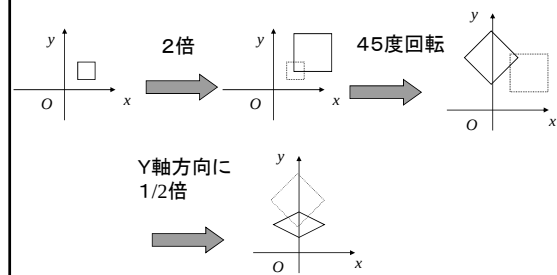


変形の組み合わせと行列の積2



練習

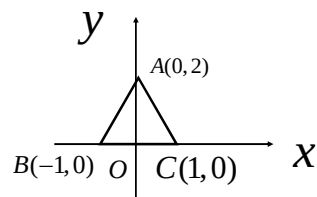
次の1連の変形を一括して表す1つの行列を求めよ。



14

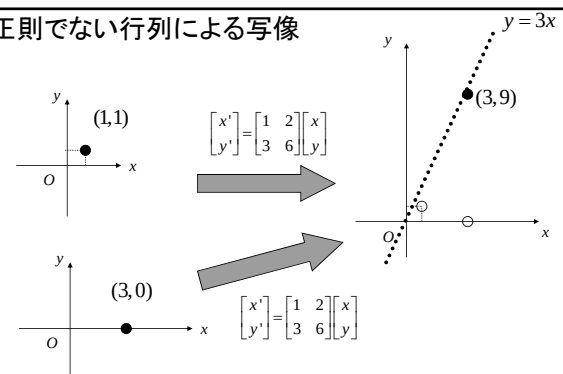
練習

一つ前の練習問題で求めた行列により、次の図形がどのような図形に変換されるかを求めよ。



15

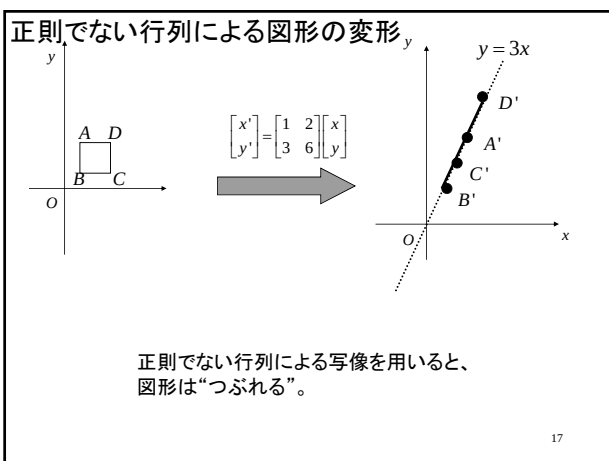
正則でない行列による写像



正則でない行列では、複数の点から一つの点に写像される。

16

正則でない行列による図形の変形



17

練習

 $\begin{bmatrix} x' \\ y' \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 2 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x \\ y \end{bmatrix}$ によって写像を表す。以下の座標を持つ四角形ABCDに対して、各頂点が上写像によって移される点の座標をそれぞれ求めよ。
また、それらの点が一直線上にあることを確かめよ。

A(1, 2)

B(1, 1)

C(2, 1)

D(2, 2)

18

線形写像

ここでは、行列によって表される写像の性質を調べる。

19

線形写像

定義(線形写像)

$\mathbb{R}^n$ から $\mathbb{R}^m$ への写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ が、次の(1)、(2)を満たすとき、 f は $\mathbb{R}^n$ から $\mathbb{R}^m$ への線形写像であるという。

(1) 任意の $x, y \in \mathbb{R}^n$ に対して、

$$f(x+y) = f(x) + f(y)$$

(2) 任意の $x \in \mathbb{R}^n$ と任意のスカラー $k \in \mathbb{R}$ に対して、

$$f(kx) = kf(x)$$

正比例の拡張概念。

正比例は、 $f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}$ の線形写像である。

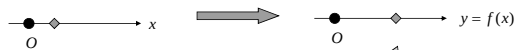
20

線形写像例1

$$f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R} \quad f(x) = 2x$$

写像元

写像先



$$\begin{aligned} (1) \quad f(x_1 + x_2) &= 2(x_1 + x_2) \\ &= 2x_1 + 2x_2 \\ &= f(x_1) + f(x_2) \end{aligned}$$

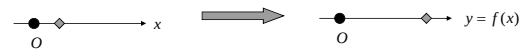
$$\begin{aligned} (2) \quad f(kx_1) &= 2(kx_1) \\ &= k2x_1 \\ &= kf(x_1) \end{aligned}$$

この2つをまとめて一つのグラフとして表すことも多い。実は、写像はきちんと図示できるものだけではない。

21

線形でない写像例1

$$f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R} \quad f(x) = x^2$$

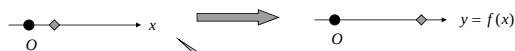


$$\begin{aligned} (1) \quad f(x_1 + x_2) &= (x_1 + x_2)^2 \\ &= x_1^2 + 2x_1x_2 + x_2^2 \\ &\neq x_1^2 + x_2^2 \\ &= f(x_1) + f(x_2) \end{aligned}$$

22

線形でない写像例2

$$f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R} \quad f(x) = x+1$$



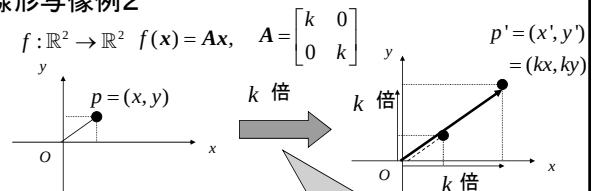
$$\begin{aligned} (2) \quad f(kx_1) &= (kx_1) + 1 \\ &= kx_1 + 1 \\ &\neq kx_1 + k \\ &= k(x_1 + 1) \\ &= kf(x_1) \end{aligned}$$

一つの図で、線形写像を表したときには、原点を通らなければならない。

23

線形写像例2

$$f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad f(x) = Ax, \quad A = \begin{bmatrix} k & 0 \\ 0 & k \end{bmatrix}$$



$$\begin{aligned} (1) \quad f(x_1 + x_2) &= A(x_1 + x_2) \\ &= Ax_1 + Ax_2 \\ &= f(x_1) + f(x_2) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (2) \quad f(kx_1) &= A(kx_1) \\ &= kAx_1 \\ &= kf(x_1) \end{aligned}$$

なお、写像 $f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$ は、 $(f: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R})$ のように一枚の図で表すことはできない。よって、定義域中の要素と値域中の要素の対応(関係)だけに注目する。

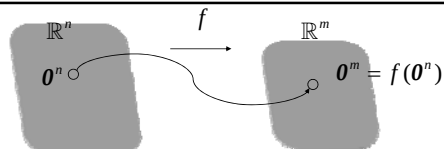
24

線形写像の性質1

(線形写像と零元)

線形写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ に対して、零元は、零元に移される。すなわち、

$$0^m = f(0^n)$$



証明略

31

線形写像の性質2

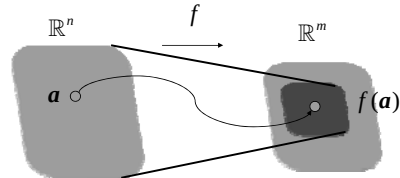
(線形写像と定義域の写像先)

$\mathbb{R}^n$ から $\mathbb{R}^m$ への線形写像 f に対して、次の集合

$$f(\mathbb{R}^n) = \{ f(x) \in \mathbb{R}^m \mid x \in \mathbb{R}^n \}$$

は $\mathbb{R}^m$ の部分空間である。

定義域全体の移動先



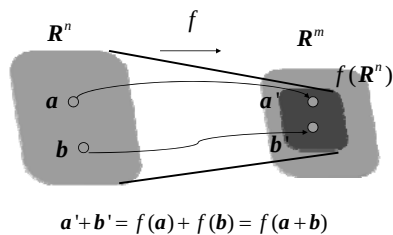
32

証明

$a, b \in \mathbb{R}^n, k \in \mathbb{R}$ に対して、線形写像の条件を調べる。

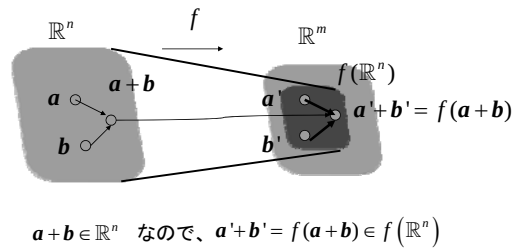
(1) $a', b' \in f(\mathbb{R}^n) \subseteq \mathbb{R}^m$ とすると、

$a' = f(a), b' = f(b)$ なる $a, b \in \mathbb{R}^n$ が存在する。



$$a' + b' = f(a) + f(b) = f(a + b)$$

33



$$a + b \in \mathbb{R}^n \text{ なので、} a' + b' = f(a + b) \in f(\mathbb{R}^n)$$

34

(2) $a' = f(a) \in f(\mathbb{R}^n), a \in \mathbb{R}^n$ とすると、

$ka' = kf(a) = f(ka)$ と書ける。

$ka \in \mathbb{R}^n$ なので、 $ka' = kf(a) = f(ka) \in f(\mathbb{R}^n)$

以上より、和の公理とスカラー倍の公理を満たすので、 $\mathbb{R}^m$ の部分空間である。

QED

35

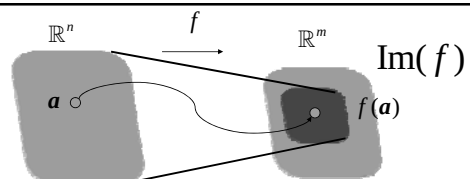
像(Image)

定義(像)

線形写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ に対して、部分空間 $f(\mathbb{R}^n)$ を f の像といい、

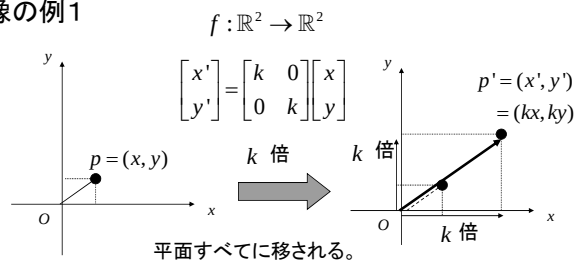
$\text{Im}(f)$ と書く。すなわち、

$$\text{Im}(f) = \{ f(x) \in \mathbb{R}^m \mid x \in \mathbb{R}^n \}$$

定義域全体の移動先
値域の部分集合(部分空間)

36

像の例1

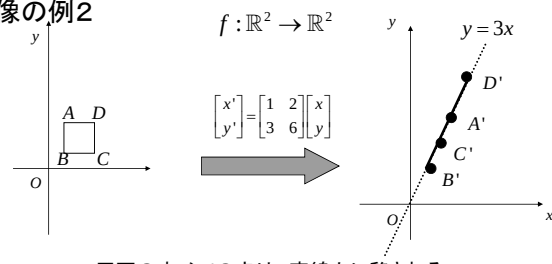


$$\text{Im}(f) = \mathbb{R}^2$$

$$\mathbb{R}^2 \xrightarrow{f} \mathbb{R}^2 = \text{Im}(f)$$

37

像の例2



$$\text{Im}(f) = \{(x, y) \mid y = 3x\}$$

$$\mathbb{R}^2 \xrightarrow{f} \{(x, y) \mid y = 3x\}$$

38

練習 次の写像 f の像 $\text{Im } f$ を求めよ。

(1)

$$f_1: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} x_1 - x_3 \\ x_2 \end{bmatrix}$$

(2)

$$f_2: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} 3x_1 + x_2 \\ -9x_1 - 3x_2 \end{bmatrix}$$

39

線形写像の性質3

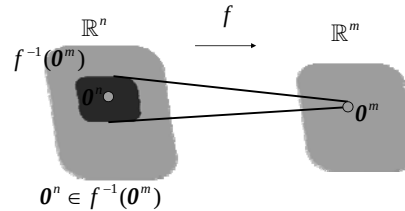
(0元への写像元)

$\mathbb{R}^n$ から $\mathbb{R}^m$ への線形写像 f に対して、次の集合

$$f^{-1}(0) = \{x \in \mathbb{R}^n \mid f(x) = 0\}$$

は $\mathbb{R}^n$ の部分空間である。

原点に移される
移動元



40

証明

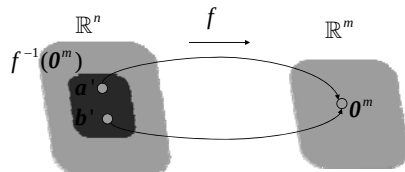
(1) $a', b' \in f^{-1}(0^m) \Rightarrow a' + b' \in f^{-1}(0^m)$ を示す。

$0^m = f(a') = f(b') \in \mathbb{R}^m$ とする。

このとき、線形写像の定義より、

$$f(a' + b') = f(a') + f(b') = 0^m + 0^m = 0^m$$

$$\therefore a' + b' \in f^{-1}(0^m)$$



41

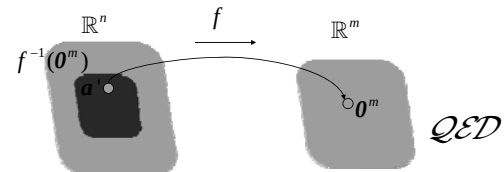
(2) $a' \in f^{-1}(0^m), k \in \mathbb{R} \Rightarrow ka' \in f^{-1}(0^m)$ を示す。

$0^m = f(a') \in \mathbb{R}^m$ とする。

このとき、線形写像の定義より、

$$f(ka') = kf(a') = k0^m = 0^m$$

$$\therefore ka' \in f^{-1}(0^m)$$



42

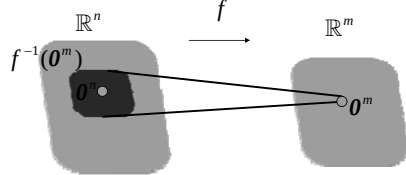
核 (Kernel)

定義 (核)

線形写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ に対して、部分空間 $f^{-1}(\mathbf{0}^m)$ を f の核といい、 $\text{Ker}(f)$ と書く。

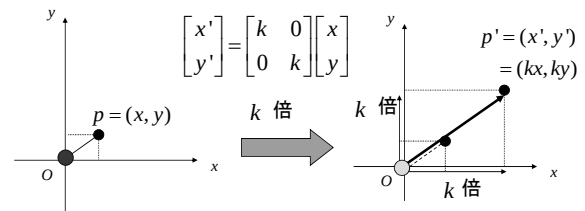
値域側の原点に移される移動元
定義域の部分集合 (部分空間)

$$\text{Ker}(f) = \{x \in \mathbb{R}^n \mid f(x) = \mathbf{0}\}$$



43

核の例1

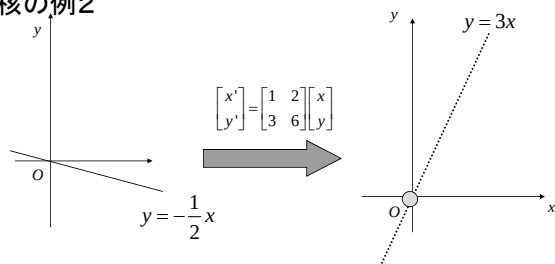


原点は原点からしか移されない。

$$\text{Ker}(f) = \{\mathbf{0}\}$$

44

核の例2



直線上の点が、原点に移される。

$$\text{Ker}(f) = \left\{ (x, y) \mid y = -\frac{1}{2}x \right\}$$

45

練習

次の写像 f の核 $\text{ker } f$ を求めよ。

$$(1) \quad f_1: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} x_1 - x_3 \\ x_2 \end{bmatrix}$$

$$(2) \quad f_2: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} 3x_1 + x_2 \\ -9x_1 - 3x_2 \end{bmatrix}$$

46

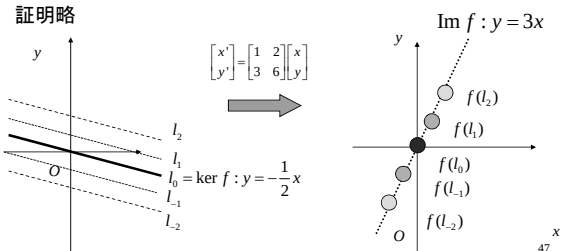
像と核の次元

定理: (次元定理)

線形写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ に対して次式が成り立つ。

$$\dim \text{Ker}(f) + \dim \text{Im}(f) = n$$

証明略



47

例題

次の写像に関して、 $\dim \text{Ker}(f) + \dim \text{Im}(f) = n$ を確かめよ。

$$f_1: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} x_1 - x_3 \\ x_2 \end{bmatrix}$$

解

$$\text{Im } f_1 = \mathbb{R}^2 \quad \text{より、} \dim \text{Im } f_1 = 2$$

$$\text{ker } f_1 = \left\{ k \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix} \mid k \in \mathbb{R} \right\} \quad \text{より、} \dim \text{ker } f_1 = 1$$

$$\therefore \dim \text{Im } f_1 + \dim \text{ker } f_1 = 3 = n$$

48

練習 次の写像に関して、 $\dim \text{Ker}(f) + \dim \text{Im}(f) = n$ を確かめよ。

$$f_2: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} 3x_1 + x_2 \\ -9x_1 - 3x_2 \end{bmatrix}$$

49

線形写像と行列

定理 (線形写像と行列)

- (1) 線形写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ に対して、次式を満たす $m \times n$ 行列 $A = A_f$ が一意に決定できる。

$$f(x) = Ax$$

- (2) $m \times n$ 行列 A に対して、写像 $f_A: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ を

$$f_A(x) = Ax$$

で定めると、 f_A は線形写像である。

証明略

50

(線形写像の) 表現行列

定義 (表現行列)

線形写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ に対して、 $m \times n$ 行列 $A = A_f$ を f の表現行列という。

線形写像は、その表現行列がわかれば、すべてがわかる。

51

線形写像と基底

性質: (線形写像と基底)

線形写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ は、 $\mathbb{R}^n$ の標準基底 $\{e_1, e_2, \dots, e_n\}$ の像

$$\{f(e_1), f(e_2), \dots, f(e_n)\}$$

が決まれば、任意の元 $a \in \mathbb{R}^n$ に対して、像

$$f(a) \in \mathbb{R}^m$$

は、一意に特定される。

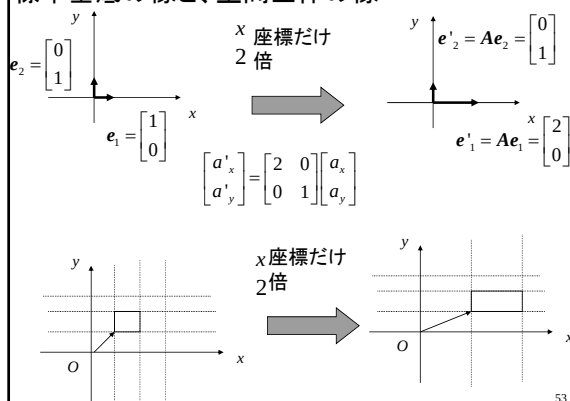
言い換えると、2つの線形写像 f, g が、 $\{e_1, e_2, \dots, e_n\}$ で同じ像をとれば、全く同じ写像になる。

線形空間の全体の像は、その線形空間の基底の像の一次結合により一意に特定される。
線形空間の要素は無数だが、基底は有限。

証明略。

52

標準基底の像と、空間全体の像



53

基底の像と表現行列

性質 (基底の像と表現行列)

線形写像 $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$ に対して、 $\mathbb{R}^n$ の標準基底 $\{e_1, e_2, \dots, e_n\}$ の像を、

$$\{f(e_1), f(e_2), \dots, f(e_n)\}$$

とする。このとき、 f の表現行列 A は、

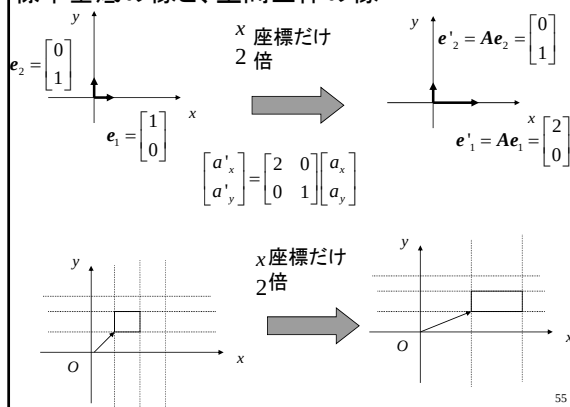
$$A = \begin{bmatrix} f(e_1) & f(e_2) & \dots & f(e_n) \end{bmatrix}$$

と表せる。

証明略。

54

標準基底の像と、空間全体の像



55

例題 次の線形写像 $f: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^3$ に対して、表現行列を求めよ。

$$f \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} 2x_1 + x_2 \\ x_1 \\ x_1 - x_2 \end{bmatrix}$$

解) 写像より、

$$f \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2x_1 + x_2 \\ x_1 \\ x_1 - x_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 0 \\ 1 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix}$$

$$\therefore A = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 0 \\ 1 & -1 \end{bmatrix}$$

56

(別解)

$$f \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} 2x_1 + x_2 \\ x_1 \\ x_1 - x_2 \end{bmatrix}$$

より、

$$f(e_1) = f \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix}$$

$$f(e_2) = f \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix}$$

$$A = [f(e_1) \ f(e_2)] = \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ 1 & 0 \\ 1 & -1 \end{bmatrix}$$

57

練習 次の写像 f 表現行列を求めよ。

(1)

$$f_1: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad f_1 \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} x_1 - x_3 \\ x_2 \end{bmatrix}$$

(2)

$$f_2: \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad f_2 \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} 3x_1 + x_2 \\ -9x_1 - 3x_2 \end{bmatrix}$$

58

表現行列と線形写像

性質(表現行列と線形写像)

表現行列が $A = [a_1 \ a_2 \ \dots \ a_n]$ であるような $\mathbb{R}^n$ から $\mathbb{R}^m$ への線形写像 f について次がなりたつ。

(1) $\text{Im}(f) = f(\mathbb{R}^n) = L\{a_1, a_2, \dots, a_n\}$

(2) $\dim \text{Im } f = \text{rank}(A)$

証明略

59

例題1 次の写像 f に関して、表現行列を $A = [a_1 \ a_2 \ \dots \ a_n]$ とする。このとき、

(1) $\text{Im}(f) = L\{a_1, a_2, \dots, a_n\}$

(2) $\dim \text{Im } f = \text{rank}(A)$

を確かめよ。

$$f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^2 \quad f \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} \mapsto \begin{bmatrix} x_1 - x_3 \\ x_2 \end{bmatrix}$$

60

解)

$$(1) \quad f\left(\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix}\right) = A \begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} x_1 - x_3 \\ x_2 \end{bmatrix} \quad \text{より、}$$

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$

$$\therefore \text{Im } f = \mathbb{R}^2 = L\left\{\begin{bmatrix} 1 \\ 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} -1 \\ 0 \end{bmatrix}\right\}$$

(2)

$$\dim \text{Im } f = \dim \mathbb{R}^2 = 2$$

$$\text{rank } A = \text{rank} \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 0 \end{bmatrix} = 2$$

$$\therefore \dim \text{Im } f = \text{rank } A$$

61

合成写像と表現行列の積

性質(合成写像と表現行列の積)

2つの線形写像

$$f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m, \quad g: \mathbb{R}^m \rightarrow \mathbb{R}^l$$

の表現行列をそれぞれ、

$$A = A_f, B = B_g$$

とすれば、 A は $m \times n$ 型で、 B は $l \times m$ 型である。また、合成写像 $g \circ f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^l$ の表現行列を C とすれば、 C は $l \times n$ 型であり、

$$C = BA$$

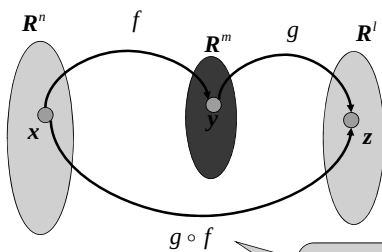
と表せる。

証明略

62

イメージ

$$\begin{bmatrix} y_1 \\ \vdots \\ y_m \end{bmatrix} = y = Ax = A \begin{bmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} \quad \begin{bmatrix} z_1 \\ \vdots \\ z_l \end{bmatrix} = z = By = B \begin{bmatrix} y_1 \\ \vdots \\ y_m \end{bmatrix}$$



$$\begin{bmatrix} z_1 \\ \vdots \\ z_l \end{bmatrix} = z = BAx = BA \begin{bmatrix} x_1 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix}$$

$g \circ f(x) = g(f(x))$
と覚えればよい。